

情報デザイン応用演習II 11. ポートフォリオ作成 II

目次

- 初めに
- ポートフォリオサイト
- HP制作 ワークフロー
 - AI Tool紹介
 - この後のページ
 - ワークフロー
 - 環境
 - ガントチャート
 - やってみよう

初めに

前回の内容

- Git
- Github
- Github Pages

をメインに行ないました。

今後の予定

前回決定したように

ポートフォリオ作成

を最終課題として、それに対して今回入れて5回課題に取り組んでいこうと思います。

企画から公開までを全てこなす課題となります。

ポートフォリオサイト

前提条件

実力差が激しいので、

1. 静的ページで作成する
 - Github Pagesとして公開すること
 - レスポンシブ対応であること
2. Wordpressを利用する
 - FSE対応テーマでなければ小テーマを利用すること
3. ポートフォリオ作成ツールを利用する

のどれでも良いことにします。(本当は3は避けて欲しいけど...)

HP制作 ワークフロー

AI Tool紹介

- [Magic Todo](#)

を利用して、ポートフォリオサイトに必要なステップを洗い出してみましよう。

Antigravity

メディア表現VIでもやるつもりですが、自律型AIエージェントを主体とする開発プラットフォームである「[Google Antigravity](#)」を紹介しておきます。

- [Google AntigravityでNanobananaの画像付きWebサイトを作ってみた](#)
- [Google Antigravityでブラウザのセットアップ手順](#)
- [【完全ガイド】 Google Antigravityの使い方！初期設定から実際の動作まで徹底解説](#)

参考

- [【圧巻】 Gemini 3 Proでプロ顔負けのWebサイトが作れるようになりました...](#)

この後のページ

ほぼ前回のおさらい...

ワークフロー

通常以下のような流れとなります。

1. ヒアリング
2. 企画立案・サイト設計
3. コンテンツ制作
4. Webサイトデザイン
5. コーディング
6. 校正・品質チェック
7. 確認・チューニング
8. サイト公開

環境

通常では

1. 開発・テスト環境
2. ステージング環境
3. プロダクション(本番)環境

と使い分けます。

1. 個人のPC
2. 関係者がアクセスできるサーバ
3. 不特定多数がアクセスできるサーバ

ですが、今回2番目は使いません。

2のところ、テストなどを行います。

ヒアリング

クライアントがいる場合、要望などを聞きます。

また、この場合、現状サイトや競合サイトの分析も行います。

今回は、ポートフォリオサイトとしてどんなものがあるか、分析調査してみましよう。

企画立案・サイト設計

分析調査を踏まえたうえで、ユーザに効果的な

- Webサイトの企画
- サイトマップ

を制作します。

コンテンツ制作

コンテンツに必要な

- コピー
- 文章
- 画像

などを制作します。

今回は、ポートフォリオサイトのため、これまでに制作し、掲載したいコンテンツをWebで掲載できるように準備しましょう。

例えば、psd, ai, movファイルでは掲載できません。PDF,PNG,mp4形式に変換しましょう。

IFRAME

HTMLではIFRAMEというタグがあります。

Webページ内に別のWebページや画像、動画などのコンテンツを読み込んで表示することができます。

ってことは、前半にやったJavaScriptの作品もこれで公開できるはずです。

- [iframeとは？基本的な仕組みと使い方・使用例を解説](#)

Webサイトデザイン

情報を整理し、ユーザビリティを考慮したWebページをデザインします。

一から制作するのは大変ですので、XDのテンプレートを利用してもOKです。レスポンシブ対応なことにも留意しましょう。

- [Free XD responsive portfolio template](#)

こんなの使うと作りやすいかもです。自分でも探してみましよう。「XD ポートフォリオ テンプレート」等

- トップページ
- 各作品ページ
- 自己紹介ページ

があれば、最低限足りると思います。

後述する**モバイルファースト**も意識しましょう。

コーディング

最近では**モバイルファースト**でレスポンシブ対応することが多いようです。(Googleさんの意向も大きいようですが)

- [モバイルファーストデザインとはスマホ版から作ればOK？手順やCSS解説つき](#)

```
@media screen and (min-width:768px){  
  /*タブレット用として画面幅を768pxまでに設定*/  
}  
@media screen and (min-width:1024px){  
  /*PC用として画面幅を1024pxまでに設定*/  
}
```

で追記していきましょう。最悪、モバイルとPC版でOKとします。

- [参考：レスポンシブ対応のレイアウトを実装する最新テクニックを解説、モバイルファーストとデスクトップファーストの現状](#)

コーディングの方法

- 全体的な構造(ヘッダー・フッター・サイドバー・コンテンツ)等を実装する
- 各エリアを個別に実装する。
- レスポンシブ化する。

ハンバーガーメニュー

レスポンシブ対応時にほとんどは、レイアウト変更で対応できるかと思いますが、それに対応できないのがハンバーガーメニューとなります。

この辺参考にしてみましょう。

- **【コピペで簡単】ハンバーガーメニューをCSSだけで作る方法**

校正・品質チェック

様々な環境で表示エラーや動作の不具合がないかチェックしましょう。

- ResponsivelyApp

もうまく使っていきましょう。

確認・チューニング

クライアントにチェックをうけ、直していきます。

今回は、なくてもいいですかね。

サイト公開

Githubで公開できるようにして終了です。

今回はデザインを終えた状態で、

1. 新たにGithubで「portfolio」というリポジトリを作成
2. VSCでクローン
3. index.htmlを作成し、公開されることを確認
4. 制作に取り組む

とすると無駄がないかと思います。

就活で利用する場合

ソースを見れば、採用担当者はHTMLやJavaScriptの技術がどのくらいするか判断できることを意味します。

```
<!--  
    HTMLのコメントアウト  
-->  
// JavaScriptの1行のコメントアウト  
/*  
    JavaScriptの複数行のコメントアウト  
*/
```

等も気にすると、評価する人にアピールもできますね。

ワークフロー(再掲)

1. ヒアリング
2. 企画立案・サイト設計
3. コンテンツ制作
4. Webサイトデザイン
5. コーディング
6. 校正・品質チェック
7. 確認・チューニング
8. サイト公開

ガントチャート

ガントチャートとは、プロジェクト管理や生産管理などあらゆる管理工程に使う表です。

残り5回ありますが、ステップがいくつもあるので、いつくらいまでにどう終わるかスケジュールを立ててみましょう。

NotionのTimelineという便利な機能があるのでそれを使ってみましょう。

- [Notionでガントチャートを瞬殺で作る。【プロジェクト管理】](#)

やってみよう

それでは、まず1-4あたりをやっていきましょう。

今日を入れて、残り5回となります。

トラブったらどんどん質問してください。